

## 地域医療支援センター



### 1. スタッフ

センター長（総合診療科 教授）  
松井 邦彦  
副センター長（特任准教授）  
荒木 智  
特任助教 後藤 理英子  
高柳 宏史  
コーディネーター  
松岡 大智  
若杉 秀作  
高塚 貴子

### 2. センターの特徴

地域医療支援センターは、県内各地域における医療提供体制の課題解決を目的に、平成21年1月に設置され、地域医療に従事する医師の教育等、様々な支援を行いつつ、それらに関連した研究を行ってきた。

平成26年4月、熊本県は「熊本県地域医療支援機構」（以下、「支援機構」）の業務を熊本大学医学部附属病院に委託することになった。これに伴い、現在当センターでは支援機構事務局の役割を担うとともに、県内地域における医師偏在の解消を目的に、県内の状況等を把握、分析した上で、医師のキャリア形成支援と一体的に、医師不足医療機関への支援を行っている。また、同県の寄附講座である、地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携、協力し、様々な活動に取り組んでいる。

### 3. 事業実績

**(1) 地域医療を志す医学生、及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援に関すること**  
**① キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与学生及び医師（以下、「貸与学生」「貸与医師」）へのきめ細やかな支援**

令和4年6月に貸与学生32名、7～8月に貸与医師55名、他1名の面談を実施し、キャリア形成についてアドバイスを行った。また希望者には、さらに別途面談を行い、課題解決へ向けた支援を行った。

**② キャリア形成プログラムに基づく貸与医師に係る派遣計画案の作成及び負担軽減策の実施**

令和4年5月、県医療政策課が本院全診療科に対して、貸与医師の派遣人事説明会を行い、それを踏まえ、翌年度の派遣先医療機関について、各医局の協力を得て早期に派遣先案を策定した。

**③ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度の運営**

キャリア形成支援として「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」への登録の推進、キャリア形成プログラムの説明、将来のキャリア形成についてアドバイスを行った。

また、令和5年3月28日に本年度卒業の貸与学生7名は、熊本県庁で蒲島知事と面談し地域医療の発展に尽力するよう激励を受けた。

**④ 知事指定病院等における医師不足の状況等に関する調査・分析、総合診療医等地域で必要とされる医師に関する情報提供等**

知事指定病院等のうち第2、第3グループに対して診療科毎の常勤医師の不足状況、派遣数の増加が見込まれる貸与医師の受け入れ可能診療科、子育て支援体制等について調査を実施し、調査結果はとりまとめ、県医療政策課へ報告を行った。

**⑤ 貸与学生・医師等に対する支援**

貸与学生・医師及び自治医科大学学生・卒業医師の義務履行とキャリア形成支援の一助とするため、地域医療ゼミを活用し、天草地域の知事指定病院等勤務医師が、公立診療所2施設の概要や地域の魅力等について説明を行った。なお、説明会の様子は支援機構ホームページ上で1年間閲覧可能とし、約130回の再生回数を記録した。

また、総合診療科の専攻医に対してテレビ会議システムを利用した合同カンファレンスやレジデントディを実施し、総合診療医として能力向上のために、指導や助言を行った。

支援機構が提供するオンライン診療支援ツール「今日の臨床サポート」「プロシージャーズ・コンサルト」利用のためのID・パスワードを付与し、必要に応じて様々な医療情報を入手できる体制を充実させた。

**(2) 地域の医療提供体制の確保に向けた支援に関すること**

**① 医師が不足する医療機関への支援並びにテレビ会議システムを活用した遠隔医療、教育支援**

当センター教員を、くまもと県北病院、宇城市民病院、上天草総合病院、天草市立御所浦診療所に週1回派遣し診療支援を行った。

また、テレビ会議システム（令和2年度整備完了）を活用し、専攻医の指導や総合診療特別実習での学生の指導等の支援を実施した。

**② 熊本県地域医療連携ネットワークの構築に向けた全体調整**

熊本県地域医療連携ネットワークの構築に向け、支援機構が地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座と連携し、県からの要請に基づき本院各診療科から15の地域医療拠点病院に対し常勤又は非常勤医師を派遣し、地域医療提供体制の充実を図った。

**③ 地域の医療機関・自治体に対する将来の医療提供体制の構築に向けた助言・提案、関係機関の役割や方向性に関する連携、調整の支援**

地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携し、くまもと県北病院、天草市立河浦病院に教育拠点を設置。地域で必要とされる医師の育成・教育機能向上を図るとともに、同講座から派遣した教員が、地域で求められる医療に適切に対応するための活動に貢献した。

**④ 貸与医師の派遣対象医療機関に関する熊本県医療勤務環境改善支援センターとの相互連携**

キャリア形成プログラムの充実や研修環境・勤務負担軽減の改善等を図るため、勤務環境改善支援センターと相互に連携し、毎月1回地域医療行政に關

する情報共有を図った。また、勤務環境改善支援センターの会議に、当方からオブザーバーとして出席する等、県内病院の勤務環境改善状況や労働行政の動きに関する情報収集を行った。

### (3) 女性医師の就業継続及び復職支援に関すること

#### ① 専任医師及び復職支援コーディネーターによる就業継続・復職支援、地域の医療機関に対する女性医師支援の提案や助言

お留守番医師制度及び短時間勤務制度による医師の就業環境づくりに取り組んだ。

本年度のお留守番医師制度の登録機関20件、利用医師は継続2名、短時間勤務を応援する診療科及び病院は熊本大学病院9科、熊本県内8施設であった。この詳細情報についてはCLOVER冊子（令和3年度作成）、ウェブサイト等に掲載し情報提供を行った。

熊本大学病院内に設置の相談窓口には、総計14件の相談が寄せられ対応した。

#### ② メンター制度等による相談体制の強化

本年度、メンター制度（県内医師対象）の登録者は、メンター候補者28名、メンティ1名であった。

令和4年5月～11月に地域で働く女性医師（修学貸与医師・自治医科大学卒医師）計26名と意見交換を行い、聴取内容と課題をとりまとめた。

これと合わせて、令和4年1月に知事指定病院等院長を対象に実施した女性医師への応援メッセージと今後の対応策についてのアンケート調査結果を、報告書としてまとめ600部を関連する各部署、医師、医学部生等に配布した。

#### ③ キャリア支援研修会による医療技術・知識の習得支援、育児支援、女性医師に関する調査・情報発信

知事指定病院等での勤務期間中における、出産・子育て時の義務年限の取り扱いに関するパンフレットを県医療政策課と支援機構連名で作成し、支援機構ホームページに掲載した。

令和5年2月に熊本県医師会と共に「医学生・研修医をサポートするための会」セミナーを開催した。その他、学生への啓発活動を3回行った。

また、ホームページで復職支援、短時間勤務、育児支援、メンター制度、セミナー情報、求人情報（掲載14件）マタニティ白衣の貸出、相談窓口、介護情報等の情報を発信した。

#### ④ 女性医師キャリア支援に関するネットワークの構築

支援機構、熊本県医師会男女共同参画委員会、熊本市医師会女性医師キャリア支援センター、本院男女共同参画推進委員会で協力して組織した「熊本県医療人キャリアサポートの会（クローバーの会）」の活動において、各機関が連携して講演会やセミナー等の啓発活動、短時間勤務制度の有効活用等のための相談業務、育児支援等を実施し、医師の勤務の継続、円滑な職場復帰等を進めた。

### (4) 県内外の医師、医学生等からの相談対応及び求人にすること

#### ① 県内外の医師、医学生等からの相談窓口の設置、面談対応

当センター内に相談窓口を設置し、貸与医師からのキャリア形成と義務履行の両立、貸与制度における義務履行の在り方にに関する相談等に対応した。

また、ホームページに医師の求人情報サイトのリンクを張り、いつでも求人情報を確認できる環境を整備し、県のサイト情報を見た県外医師から問い合わせに対応した。

#### ② 熊本県地域臨床実習支援制度の実施

熊本県外在住の同県出身の医学生、熊本県で従事することを考えている医学生等が同県における地域医療の現状を学ぶことを支援し、将来の医師偏在の是正や医師不足解消につなげるため事業を計画したが、新型コロナウイルス感染症による受け入れ先医療機関への影響、各大学の実習参加制限の状況等を勘案し実施を見送った。

#### ③ 県内外医師へのリクルート活動

総合診療医の受け入れを目的に全国会議等（オンライン開催）で、総合診療専門研修プログラム紹介のPRポスターを掲載する等、求人活動を行った。

また、令和4年6月に横浜市で開催された、日本プライマリ・ケア連合学会学術大会では、支援機構の取組みや熊本大学病院総診プログラム紹介のポスター、パンフレット等を出展・紹介した。

### (5) その他の事業

#### ① 熊本県地域医療支援機構理事会の運営

令和5年2月に「熊本県地域医療支援機構理事会」を開催した。

#### ② 支援機構及び地域医療に関する周知、啓発

令和5年1月に地域医療支援機構講演会を対面とオンラインによるハイブリット方式で開催し、「熊本の若手医師へのメッセージ～徳島南部の小病院における診療、教育、研究、そして災害対策の実践～」をテーマに美波病院（徳島県）の本田壯一院長にご講演いただいた。

地域医療広報誌「COCODE！（ココデ）」を9月と3月に発行。その他、セミナー等について関係者に周知するメールマガジンを2回発信した。

#### ③ 県が設置する寄附講座、熊本県へき地医療支援機構との連携

地域医療ゼミでは、修学資金貸与制度やキャリア形成プログラムについて、貸与学生・医師への周知を支援機構と寄附講座が連携して実施しており、今年度は年間11回開催した。

また、夏季地域医療特別実習が中止となり、それに代わるものとして、第2グループの病院での特別実習を計画、準備したが、これについても新型コロナ第6波の感染拡大の影響で中止となつた。

#### ④ その他支援機構の運営に必要な事業

熊本県医療政策課担当と地域医療支援センター教員及び担当者、大学病院総務課地域支援担当、県医療勤務環境改善支援センターとの連絡会を月1回ペースで年間12回実施した。